

「ユニセフ教室」の学習講師として活動するにあたって

1. 活動中は、ユニセフを代表する（そのように見られている）立場にあることを意識しましょう。

ユニセフは中立的な立場で世界の子どもたちのための活動をしています。皆様それぞれのご意見は尊重されますが、ユニセフの学習講師として活動している間は、政治的な発言や特定の国・勢力や人を批判するような表現は避け、中立を保てるよう注意してください。

2. ユニセフの授業や講演は、厳しい状況下で暮らしている子どもの悲惨さだけを伝えたり、かわいそうと思ってもらったりすることを目的とするものではありません。子どもが直面している課題を知り、その課題の解決について考えよう、ユニセフと一緒に活動しよう、とはたらきかけることを目的にし、その目的に沿った言葉の使い方、ストーリー展開などを考えましょう。

たとえば、「かわいそう」「恵まれない」「…してあげる」などの言葉は、文脈にもよりますが、できるだけ控えるよう意識してください。

また、やさしく（優しく／易しく）、ていねいに、できるだけ正確に説明しましょう。厳しい状況について見学者が自身の想像力をはたらかせ、そうした環境で生きる子どもたちの立場に立って感じたり考えたりできることが理想です。

3. 差別語や人を不快にさせる言葉は使わないよう気を付けましょう。何を差別と感じるか、不快に思うかは、人によって異なります。普段から、社会課題にアンテナを張り、気づいたことの共有に努めてください。

また、授業に参加する子どもの家庭環境もさまざまです。たとえば「お父さん・お母さん」を「おうちの人」へ、「父兄」を「保護者」へ言い換えたり、「日本ではみんなが」を「日本では多くの人が」と限定を避ける表現にしたりなどの配慮があるとより良いです。

4. 水がめ運びなどの体験を伴う活動の際には特に、思わぬケガなどを招かぬよう、明確に指示を出し（受け渡し時は、いったん下に静かに置く、ゆっくりと持ち上げ、運ぶ、無理をしない、頭に寄せようとしたりしない）、リスクを避けるサポート（付き添いながら歩く）をお願いします。

5. 事前に参加者にどのような子どもや人がいるかをリサーチしておきましょう。特に、ネパール（水がめ）やスライドで使用する写真の国の出身の子どもがいる場合、その国のステレオタイプや偏見を招かないような配慮が必要です。